

## 令和4年度 第2回草津市環境審議会 会議録（概要）

### ■日時：

令和4年8月31日（水）9時30分～12時00分

### ■場所：

市役所8階 大会議室

### ■出席委員：

小林 圭介 委員(会長)、山田 淳 委員(副会長)、壽崎 かすみ 委員、山川 正信 委員、横田 岳人 委員、中島 有希子 委員、岩本 重治 委員、奥村 真知子委員、金澤 成子 委員、横江 秀美 委員、境野 和子 委員、鶴田 真理子 委員、原田 聖明委員、松村 幸子 委員、森 毅 委員、丸林 浩二 委員

### ■欠席委員：

樋口 能士委員、井上 忠之委員、北脇 芳和委員、中村 暁美 委員

### ■事務局：

環境経済部	寺田部長、太田副部長、古川副部長
環境政策課	藤野課長、松尾課長補佐、成相主任、谷主事
温暖化対策室	永原室長、中野副係長
資源循環推進課	白樫主任

### ■傍聴者：

1名

### ■議題等：

第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について（報告）

## 1. 開会、部長挨拶

---

本日は、令和2年度に当審議会において、御審議いただき令和3年3月に策定しました第3次草津市環境基本計画の進捗状況について、計画期間の初年度の御報告をさせていただくものでございます。委員の皆様方には、慎重かつ活発な御審議をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

## 2. 議事概要

---

### (1) 報告事項 第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について

- 資料① : 第3次草津市環境基本計画～体系図～
- 資料② : 第3次草津市環境基本計画達成目標進捗調査票
- 資料③ : 第3次草津市環境基本計画関連事業進捗調査票（取組数）
- 資料④ : 第3次草津市環境基本計画重点事業
- 参考資料 : 第3次草津市環境基本計画関連事業進捗調査票

【事務局】 <資料①～④について説明>

【委員】 コロナ禍で人が集められない中、実際の対面でのコミュニケーションがとりにくい、大勢を集めてのイベントができないといった中で事業の進めにくさはあったのか。コロナ禍以前と比べ環境に対する取組で市民の意識が変わったことを感じられたことはあったのか。重点事業の地域資源健幸ラリーについて、実際にどのくらいが歩いているかを人数、歩数等、定量的に把握することについて、何か計画されているのか。また、どのような評価方法で評価されようとしているのか。

【事務局】 こども環境会議について、コロナ禍以前は一堂に会して100団体ほどの参加者が発表、交流を行うイベントであったが、昨年度は交流の部をオンラインで開催し、Web ミーティング機能を用いて各団体に集まっていただく交流方法を企画したが開催が難しい状況であった。また、YouTube で団体の活動を紹介して発信するという方法も並行して企画をしており、新たな手法で多くの方に発信できたと評価している。重点事業2の地域資源健幸ラリーの歩かれた方の動向の把握について、この事業はラリーを企画して、そこに参加していただく方を増やし地域の資源を歩きながら巡って体感していただく事業としており、歩かれた方の動向を評価するような計画はない

が、昨年、滋賀県が開催されていたB I W A-T E K Uアプリに職員の健幸という観点でエントリーして歩数を競うような取組を実施されていたので、そのような結果も情報収集していきたい。

【委員】 資料②の進捗状況について、令和3年度達成の目標値または前年との比較があるが、中間地点あるいは年度ごとに目標値に対してどの程度の達成状況なのかという書き方をしてもらえると全体で見やすい。資源循環型社会の構築について、令和8年、令和14年の達成目標値はごみ処理基本計画に載っている数値であるか。また、1日あたりの家庭系ごみ量は焼却ごみのみか、それともごみの総量か。

【事務局】 中間および最終の目標値はごみ処理基本計画の数値と合わせている。また、家庭系のごみ量について、焼却ごみも含めて破碎ごみ等、すべてのごみ種の総量である。

【委員】 健全な生活環境の保全について、立入件数に対する指導件数の割合で評価すると、達成率が上がるのでは。立入の範囲を広げれば指導件数もまた増えていくということもあるので、どのような場合に立入するのかというような基準が必要であると考え。うるおい豊かな快適環境づくりの調査年度により多少増減があるというのはどのように評価しているのかわからない。実績値の推移あるいは目標を前倒しで達成できているのかを記述してもらえるとわかりやすい。イベントのリモート化について、リモートだから参加しなくていいと思われる人と、周知したことによって関心を持って見てくれる人と二通りある。市民に向けた取組をどうやれば広まっていくのかというところも取り組んでもらえたらと思う。

【委員】 この計画の策定後にカーボンニュートラル宣言をしたことにより、計画を立てた時点のプロセスでカーボンニュートラル宣言の内容が達成できるのか、できないのか。場合によっては対策を強化しなければいけないのでは。この計画をそのまま延長しても宣言達成は難しいと考える。計画を立てた時点でのものとしては今の進捗の報告で特に問題があるというふうには思わない。ただ状況はどんどん変わっていくため状況に合わせて、その計画に新たに事業を加えるのか、重点的にやっていく配分を変えるのか、工夫が要ると考える。先ほど、広報くさつを読んだが、環境の取組が出てこない。環境政策の話題を書けるような場所をとって、保護樹木や自然環境の解説等を毎月連載してもいいと思う。あるいは今回の資料②の進捗表は12項目

あり、これらの達成状況について月に1回ずつ1年間掲載できる。

【委員】 コロナ禍で事業がしづらかった中、こども環境会議の開催方法等で工夫されたと思うが、オンライン開催で大学との連携、学生を巻き込んでの展開というのができないのかと思う。次に気候変動への対策で愛する地球のために約束する協定書に小学校は対象となるのか。

【事務局】 様々な団体を対象にさせていただいているので、小学校も対象になる。また、ゼロカーボン、脱炭素について、教育委員会とも連携して副読本の作成を進めている。

【委員】 学校の授業で普及することができれば、子どもたちは学校での出来事を親に話し、波及効果として地球温暖化対策に取り組む市民の割合が増えることも期待できる。次に、健全な生活環境の保全の河川のBODの達成状況で、狼川が4回未達成となっていることについて、草津市の下水道普及率は高いと聞くが、狼川近辺では下水道の供用開始をしていないのか。狼川の上流でBODを測ったことはあるか。

【事務局】 下水の普及率は90%を超えており、狼川流域が特に接続する割合が低いということはない。原因が不明ではあるが、狼川の達成状況の割合が低くなっている。直前に分岐する河川の上流で原因を究明しようとしたことは一時期あったが、流入してくる河川で差が出なかったため、それより上流の調査は行っていないため、今後の原因究明の参考にさせていただく。

【委員】 環境基本計画および計画に連なるデータは、企業にとっても大変価値のある素晴らしいものであると感じた。しかし、その存在を知らなかった。環境行政に関わっている方は知っていたかもしれないが、普通に暮らしているとこのような情報は入ってこない。これは誰が作り上げたものなのか。

【事務局】 この基本計画を作成したのは市であるが、作成にあたってこの審議会の場で御議論いただきながら作成している。また、ここで紹介している事業一つひとつの進捗は、各部署が行っている事業で環境に関わる事業を調査して作成している。

【委員】 行政と関わることで販路を広げていきたい、イメージアップしたいと考

えている草津市の事業所を巻き込み告知することで、市を盛り上げていければ、より良くなると考える。

【委員】 このような環境への取組を行っていることを知らなかった。広報でしか知る機会がなく、インターネットで情報を確認することもなかったので、広報等でもう少し詳しく見られる機会が増えればよいと思った。また、市の軒数全体から見ると、生ごみ処理機の購入実績56件では普及率は低いと言える。この活動を広げることができれば、ごみの減量にも繋がると考える。

【委員】 家庭用での低炭素、脱炭素は非常に重要だと思うが、CO<sub>2</sub>排出量が多いのは、産業用、業務用の分野であると考え。本日、説明があった環境イノベーションについて、何か遠い存在ではなく身近に取り組めることを具体的に示していくことが重要だと考える。また、気候変動への対策というところで、市民の意識調査の結果、地球温暖化対策とゼロカーボン、脱炭素との繋がりが十分理解できないというようなコメントがあったが、市民の方が脱炭素の手前の低炭素いわゆる、省エネを進めていかないと、最終的にゼロカーボンに近づかないので、身近にできる省エネ行動というのは大事であると考え。

【委員】 自然とともに生活する環境づくりの生物多様性保全対策について、去年の半分程度しかアライグマやハクビシン等が捕まらなかったという結果を見て、農業被害が出たので市に捕獲器を借用したが捕まらなかった事例を思い出した。栽培時期を調整すれば捕獲できるのかもしれない。また、循環型社会という観点で野菜残渣の処理に困っている農家が多いと思うので、大型の堆肥化施設を市または県で試してみてもどうか。次に、北山田にある2000棟のビニールハウスのうち、放棄地も見られるので、その空きを活用することはできないのか。

【事務局】 小動物について、生活環境被害は環境政策課、農作物被害に対しては農林水産課で檻の設置を行っている。

また、循環型農業の観点では、野菜残渣が課題であると市の方でも認識している。3年、4年ほど前に、北山田漁港で野菜の残渣を使って堆肥化の実験をおこなったが量的な部分では問題ないが、食品残渣を入れないと品質が高くなるため、地元の方と一緒に話し合いながら、検討していきたいと考えている。ビニールハウスについては、農業協同組合によるとハウスも含めた貸し借りの仕組みがあると聞き及んでいる。

- 【会長】 今の発言内容は、農業、農林部関係の部分が多いので農業部局へ要望していただきたい。
- 【委員】 資料の中でごみ関係のことがたくさん載っているが、これは広報にも載るのか。
- 【事務局】 広報くさつに特集の記事等で設ける予定はないが、クリーンセンターの年間報告書ということで、市内で出されたごみの量や処理状況を毎年市のホームページに掲載している。
- 【委員】 いきもの自然学校は、学校内の行事や授業として取り組むものか、それとも希望者を募って実施する事業なのか。
- 【事務局】 市内のまちづくり協議会で進めており、直接学校とは関わりはないが、まちづくり協議会から学校へ周知されるなどして事業を展開されている。現在、志津学区と笠縫東学区に取り組んでいただいている事業である。
- 【委員】 ゼロカーボンに対する市民の理解はまだ進んでいないと考える。先ほど話もあったが、環境のコラムを広報に毎月載せるなど、一般市民一人一人向けて情報発信していくような取組を強化項目として加えていただきたい。
- 【委員】 環境に関する業務を行っているので、行政のホームページを見る機会が多いのだが、本日の資料のような内容は、ホームページを見てもここまでの情報は得られない。こうしてみると様々な事業を実施していることがわかるが、市民を巻き込まないと成り立たない事業があるので広報をより活用する必要がある。課題と改善策が記載されているが、実際そのような課題があるのかがあまり見えてこない。また、重点事業がどの方針に重点を置いているのかや、最終年度に向けてのスパンや課題が見えれば、より良くなると感じた。
- 【会長】 この場合は環境基本計画の計画づくりを行って、計画に草津市の庁内関係の各部課がどのように取り組んでいるかを拾い出して、それを皆さんがどう評価するかであり、それぞれ目標は設定しており、課題というのは目標であると考え。その目標について達成しているのか、していないのかを評価

する場であるということは承知していただきたい。

【委員】 環境への取組を行うにあたって、市民の方の意識を高めることが一番大事なことであると思う。生活している中でごみの問題が一番大事なことであると考えてるので、これからも市民の皆さんに少しでも理解いただけるように進めていけたらと思う。

【委員】 資料②について、令和8年と令和14年の目標はあるが、令和3年の目標がない理由はあるのか。こども環境会議の参加団体について、令和2年度の実績0ってというのはどういうことか。気候変動への対策について、協定者の数を目標に入れているが実績と乖離しており、ここに書いてある改善策で達成できるのかというのか疑問である。生物多様性保全の外来生物の捕獲数について、捕獲数を目標にするのは捕獲数が増えるということは個体数が増えるということになるので評価方法に疑問がある。狼川周辺の下水道の接続率は何%か。指導件数の数値を目標にするより、立入件数を目標にする方がわかりやすいと考える。湖岸の視点場をPRしているとあるが、視点場とは何か。重点事業3の環境イノベーションについて、事業者のマッチング制度の設計、運用をうまくやれば、環境配慮型商品やサービスが創出できるということになるのか。どこかが主体的に動かなければ運用できないように感じる。

【事務局】 計画の目標について、目標値が令和8年と14年しかないというところで、計画自体については、中間年度と最終年度を目標に作成している。実績については、目標値または前年度との比較ということで、年度ごとに目標値を定めているものについてはそれが記載されている。定めていないものについては前年度との比較を記載している。各部署で目標を定めているところについてはその値を記載している。統一感がないので、整理については今後検討したいと考えている。こども環境会議について、令和2年度の実績が0というのはコロナの関係で中止をしたことによるものである。外来生物の捕獲数の目標について、設定するときに審議会にて議論していただいて、決めさせていただいたが、中間見直しのタイミングで議論するのも一つだと考える。河川水質について、下水道の狼川沿いにおける接続状況までは把握をしていないため、今後検討させていただく。法令に基づく指導件数について、先ほども話にあがっていたが、立入件数分の指導件数の割合を算出するなどの検討をさせていただく。重点3について、今回の基本計画から経済の観点も入れた重点事業になっており、非常に難しい事業であり、実際どのよ

うに進めていくのかということについては試行錯誤しながら進めているところである。また、環境イノベーションの制度をもとに声掛けをして商業部局が運用している制度を活用していきたいと考える。愛する地球のために約束する協定者数について、現在商工会議所や各まちづくり協議会にも呼びかけて、環境活動の推進と協定の締結に向けた啓発を行っている。視点場については、草津市と大津市で連携して景観事業を行う中で、草津市から大津市がよく見える場所を2か所ずつ選定しており、その場所のPRを行うというものである。

**【委員】** 地球温暖化の対応については、短いスパンで目標が修正されることが多いので、目標の見直しは都度必要だと考える。また、地域の人たちに環境に関する取組を広く知ってもらい、参加してもらうことが全般的に環境を良くする一つの条件だと思うので、月1回、草津市が発行している広報くさつに関連情報を載せることが重要であると考えます。ただ、広報を読んでおられる市民が何%なのかはわからない。行政の方は知っているのか。広報というのは出したら終わりという考えでは駄目で、いかに読んでもらい事業について知ってもらおうかということが必要なもので、仕組みづくりを考えていただきたい。

**【委員】** 広報について、災害時の避難所関連のことで市役所からの情報が住民にどれだけ届いているかというアンケート調査を行った。結果は全然駄目で伝わっていなかった。簡単に言ってすぐ何とかなることではないということはあるが、思っている以上に市民に情報は伝わっておらず、避難所に関するアンケートでさえそのような結果が出ているので、環境についてだとさらに市民の関心は低いと考えられる。

**【副会長】** 進捗状況の確認ということで社会の動き、行政の動きが非常に早く、目標値も動く可能性があるので、毎年ある程度の暫定目標等を掲げてもいいし、基本的には中間見直しの令和8年、ここで見直しをするということだが、目標値に括弧つきでも毎年の目標を記載した方がわかりやすいと考える。

**【委員】** 第三次計画を作るときに、12年にしたのは何かで議論されたか、何かに基づいて第三次は12年間にしたのはか。

**【事務局】** 草津市全体の総合計画があるのでそれに合わせている。達成目標の設定の際に、今中間目標と最終年度目標を計画に記載をしているが、それぞれ計

画を立てた時点の実績から毎年何件ずつとか、そういう根拠のもとに、この中間と最終年度を設定しているので、さきほど御意見にもあったとおり、例えばその年度ごとの目標を括弧づきで表示して、それに対して進捗度合いがどうなっているかということを毎年度評価する等、そういった方法も検討していきたい。

【委員】 地球温暖化対策に関しては、経産省と環境省と文科省が一つの枠組みとして、大学が情報交換をして、ゼロカーボンをどう進めていくかという協議会を作っている。そのような場を使おうと思えば使う余地はあると考える。環境イノベーションに関しても、大学では様々な情報を集めながら地域と連携して、技術供与等、市が展開されようとしている事業を行っているので、活用いただいて、草津市の中だけでなく、もっと広がりを持たれば、地球環境の問題に効果的な対処ができると思う。使うために必要な情報はまた提供は行う。それが大学の地域貢献の一つの姿と考える。

### 3. その他

---

【事務局】 次回の審議会について、開催する場合は1か月前に調整し御案内をさせていただきます。

### 4. 閉会

---

【副会長】 各委員熱心に議論していただいた。ぜひこの熱意を継続していただきたい。

【事務局】 これをもちまして、令和4年度第2回草津市環境審議会を閉会させていただきます。

以上